平成２５年２月 佐賀市長記者会見

平成２５年２月定例会の議案について
日時：平成　２５年　２月１９日（火）１４時００分～１４時５５分
場所：佐賀市役所２階 庁議室
出席：秀島市長、総務部長

■　市長概要説明

皆さんこんにちは。今日はよろしくお願いします。それでは２６日開会予定の２月定例会の案件（**資料：平成２５年２月定例会案件一覧**）についてご説明申し上げます。

いつものように内訳でございますが、まず当初送付が４２件、議案が３９件、報告が３件ということになっています。

議案の中で、時間の関係もありますので省略をいたしまして、条例議案で２つほど私のほうから説明をさせていただきます。そして補足して総務部長のほうからお願いをしたいと思います。

〔平成２５年２月議会案件について〕

私からの説明は、**第２１号議案「佐賀市空き家等の適正管理に関する条例」**でございます。最近、高齢化がどんどん進んでまいりまして、地域では空き家・空き地、ほったらかしの部分が結構みられます。意図的ではないけれども、亡くなられたりして、しょうがなくなってしまっている部分。それが近所に迷惑をかけているということで、皆さんもご存知のように、佐賀市議会でもかなり前からそのことについて問題提起があっております。

その対応策として、要綱等で対応しようかということで準備を進めておりましたが、最終的には条例できちんと定めようということになりまして、今回、提案するものでございます。

条例の中身でございますが、この条例を制定することによって、所有者・管理者がそれぞれ責任を持つ責務を明確にしているということであります。それから、私達からのお願い・指導、そういった部分があった場合については、生活の実態等をみて助成等も考えており、寄付の受け入れや、建物解体費の一部助成も考えているということであります。

佐賀市の対応といたしましては、実態調査・立ち入り調査・指導・勧告そういったものができるという事になっています。そして代執行も可能ということでございます。代執行する場合は、予算も当然考えなければなりませんので、予算議案の中に入っているところでございます。

条例議案の２つ目、２ページのところの**第３３号議案「佐賀市国民健康保険税条例の一部を改正する条例」**でございます。これは全国的に国保の会計が厳しくなっております。佐賀県内でもそうでございます。

佐賀市は今の制度で、そしてできるだけ収納率等を高めて財政的に迷惑をかけない。それともうひとつは、公平公正さを保つためにも全国で平成２３年度分の実績が出ておりますけど、それでいきますと、連続４年県庁所在地の都市では収納率ではトップというところで、職員の頑張りがそこに示されていますが、それでも今の国保の実態をみると追いつきません。収納率をちょっと高めたくらいでは追いつかない状況になっているわけです。

一つは、被保険者の所得階層が非常に低くなっているということ。だから入りの部分も少なくなってくるわけであります。

それと片方では、給付費が伸びているというような状況の結果、決算的に捉えていきますと、平成２３年度も赤字だったんですが、平成２４年度も赤字が昨年に比べてもう少し膨らんだところで予定されているということであります。

このままいきますと、どんどん赤字が膨らんで大変になりますので、やむなく国保税の率を引き上げさせていただくことになりました。ただ、その時の基礎になるのは、赤字の平成２３年度と平成２４年度の部分は、今回の引き上げの部分には加味させない。それは一般会計にお願いをするということで、そちらのほうからの繰り入れで処理をして、平成２５年度以降の分について上げさせていただきたいということであります。

年間４億４千万円ほどの収入増を見込んで保険財政を立て直すということでございます。平均の引き上げ率が９．５パーセント。被保険者の家庭にあっては、１割近くの保険税アップになりますと、かなり生活に打撃を与えるということにもなりますが、申し訳ないけれども引き上げさせていただきたいということで、今回、議会に提案しているところでございます。

総務部長のほうから、同じ条例議案でいくらか補足で説明をさせていただきます。

（総務部長）

私のほうからは、**第１９号議案の「佐賀市道路の構造の技術的基準等を定める条例」**の説明をさせていただきます。

基本的には、分権一括法で国と同じような条例を作っておりますけれども、この条例につきましては、独自の基準を設けており、特に今、自転車歩行者道の幅員ということで、国の政令では３メートル以上と規定されておりますけれども、交通の状況・その他特別の理由により、やむを得ない時は佐賀市におきましては、２メートルで設置できるということで条例に規定しております。

特に山間部ですとか歩行者が少ない所、狭隘（きょうあい）なところにつきましては、幅員２メートルがあれば自転車歩行者道の幅員としては十分であるという判断で２メートル以上でも設置できるということで考えているところでございます。

また、同じように道路の停車帯につきましても、政令におきましては２．５メートルを標準とすることとなっておりますけれども、道路の実状に応じて、市内におきましては１．５メートルとすることができるということで、分権一括法はほとんど国と同じような条例の作りになっておりますけれども、この件に関しましては、佐賀市内の情勢ですとか道路の通行の状況に応じて、臨機応変に対応できるというような独自基準を定めたところでございます。

条例につきましては以上です。

〔平成２５年度当初予算（案）について〕

（市長）

それでは、続いて平成２５年度の予算関係に入らせていただきます。

私が述べるというのはどうかと思いますが、最近の経済情勢については、私も元は皆さんの新聞から仕入れたものでございますが、相対的に申しまして、円安、そして株価がかなり上がってきたものの、これが本物の経済なのかどうかわかりませんが、一応、国民の皆さん、また私達佐賀市民もいい方向だということで期待感を持っているところであります。

その中で、国の経済政策といったものが加味されて今後、経済が本当の意味で好転して暮らしやすい社会になってくれればと思うところでございますが、昨今の例えばガソリンの料金等をみますと、私はいつも朝散歩するのですが、ガソリンスタンドのところに価格表が書いてあって、それがどんどん価格が上がっていくという、どこまで上がるのかなとそういう心配もせざるを得ないというようなことで、インフレ政策がとられてそれなりの成果が収められるかもわかりませんが、かたや賃金等が抑えられたり下げられたりして消費のほうが抑えられるとその効果が出るのかどうかというのも非常に心配な部分だということで、経済評論家の皆さんが指摘をされているのを聞いたことがあります。いずれにしましても、そういったものが克服されて１日でも早く生活のしやすい社会になればというふうにも思います。

そういう中で私達佐賀市の暮らしの実態等をみてみると、まだまだ不安材料がたくさんだと思います。生活保護者の数も毎月増えているような状況。あるいは、子育てといっても共稼ぎを希望される方が後を絶ちませんので、保育所待ちの数が増えているようなところで、なかなか対応が追いつかないというようなところでございます。

そういう中で、平成２５年度の予算はどういうふうにしていくのかと申しますと、ここ（**資料：平成２５年度当初予算概要説明**）に書いていますように、市民の生活を最優先ということで安心・安全、防災を含めまして環境・福祉、そういったものに取り組みます。

それから２つ目に、夢のある地域への再生ということで地域力アップを目指します。地域の資源を磨き、活気溢れる賑わう街づくりということで、こちらのほうも頑張らなければならない。

それから３つ目は、これから先の子ども達がやはり郷土を誇りとして健やかに伸びていく、そういう部分での素地作りをしていかなければならない。確かな学力等も当然必要になってまいりますので、力を入れていきたいという目標を立てて、細部の説明を行います。

平成２５年度の当初予算の規模でございますが、一般会計８５２億円。前年度に比べますと２４億円の増で、２．９パーセントの伸びになっております。それから特別会計、これは３つの会計がございますが、３２１億円。合計で１１億５千万円ほどの前年からの伸びでございます。それから自動車運送が１１億円程度でございますが、これは前年に比べて１，１００万円程度の伸びでございます。水道事業は５６億出ておりますが、前年にくらべて９００万円の伸びになっています。次は下水道が１３６億円という数字を出しておりますが、これは前年に比べて１８億円程度落ち込んでいます。それから工業用水は１，１００万円ですが、１００万円が前年に比べて伸びております。それから市民病院であります富士大和の温泉病院、これが１８億円という数字を出していますが、前年に比べて２億３千万円ほどの伸びを示しています。

内訳でございますが、歳入総額、こういうふうな収入科目間ごとの伸びになっています。一番我々が頼りにしますのが市税でございますが、２８６億円と年々下がっております。一番ピークだったのが近年で平成２０年度、実績で３０５億７，０００万円ということで、そのころに比べますと、現在２０億円近く減っております。

次は、歳出の款ごとの内訳です。それから、こちらが性質別でございます。民生費がどんどん伸びていて、土木費がどんどん減っているというような状況が出ています。コンクリートから人へというような部分がまだまだみえておりますが、この中の扶助費、これが２４パーセントで２０４億円という数字を来年度は示しておりますが、これが平成２１年度、今から４年前の決算では構成比で１７パーセントほど伸びており、金額で１４９億円ですので５５億円ぐらい伸びています。もちろん、子ども手当て的なものも扶助費に入っていますが、扶助費の伸びが大きいので、財政がだんだん硬直化をしています。これは佐賀市だけではなくて全国的にもそうだろうと思いますが、そういうところが非常にきつい部分でございます。

来年度、投資的経費はどういう数値を示しているのかということで、こちらに平成２２年から平成２５年までの投資的経費の状況を書いています。前年に比べて少し伸ばさせて

いただいております。この部分については、ある程度確保して地域の経済への下支えを市の財政もしたいということで確保しているところでございます。

それでは、平成２５年度の重点課題について、それぞれ予算付けを説明いたします。

重点課題は１から５までございます。くらしの安心・安全から経済、健康、子育て、それから地域行政の絆づくりということで項目を正月にお示しいたしましたが、これに対応する平成２５年度の予算付けはどうなっているのかということを説明申し上げます。

まず、第一の課題であります**【１.くらしの安心・安全と環境にやさしいまちづくり】**での**「（１）防災・減災体制の強化」**でございます。

去年もこのような状況に７月豪雨でなってしまいました。これから１日でも早く脱出したいという考えを持っていますが、有明海の干満の差の大きさからしますと、なかなか脱出できないでいるわけでございますが、平成２５年度中に排水基本計画を作り上げますので、それで対応をしていきたいということでの事業でございます。（**「排水対策基本計画策定経費」**）

続きまして、同じ課題でございますが、**「（２）環境都市さがの実現」**ということで、**「清掃工場バイオマスエネルギー利活用促進事業」**について説明させていただきたいと思います。

高木瀬の清掃工場では、発電施設も持っています。この施設は１日、３００トンの処理能力を持っていますが、煙突から排出されるＣＯ２が、今はそのまま出ていますが、これを回収して、なにか農業面で有効に活用できないか、そういったものをやってみようではないかと。そういった考え方はあちこちあるかも分かりませんが、自治体的に取り組みをしているのは数少ないと思います。佐賀市が初めてかもわかりませんが、そういうことでやっていきたいと。その初年度として、事業を３，１００万円程度組ませていただきました。事業の内容は、二酸化炭素の回収設備の設置と回収した二酸化炭素の活用方法の調査研究ということでスタートの年になります。

この２番目の**「空き家等適正管理事業」**は、先ほど申しましたから省略します。

次は課題の２つ目、**【２.経済・産業の活性化と街なか再生】**の**「（１）魅力ある地域資源の充実強化」**の中で、**「熱気球世界選手権大会誘致事業」**を説明します。予算は４５０万円計上しておりますが、第２２回熱気球世界選手権大会を誘致するということで、２０１６年に開催予定の熱気球大会を、できれば誘致をしたいということで取り組みます。

それからその下、同じ熱気球でございますが、佐賀は熱気球、バルーンの街だと言って

も、シーズン以外はなかなか見ることができない、話を聴くことができないという部分がございますので、１年を通してバルーンに親しむことができるミュージアムを整備したいということで、今回、基本構想を策定するために予算を４００万円計上しているところであります。

次が**「（２）中心市街地の活性化」**で、４核構想はずっとやっていますし、まもなく新商工ビルも建築に入りますので説明は省きますが、**「恵比須ステーション設置支援事業」**ということで、恵比須ステーションを作りたいということで予算を計上しています。中心市街地に国保連合会のビルが今建っていますが、その南辺りに位置するところに設置予定でございます。

次は**【３.健康づくりの推進と福祉の充実】**の**「（１）生涯を通じた健康づくりの推進」**の中の、**「ラジ＆ウォーク推進事業」**です。３８５万円の予算ということで、これはずっと前から佐賀市で取り組んでいるものであります。「朝ラジ・まなざし・朝ごはん」というキャッチフレーズでやっていますが、その取り組みが近々文部科学省から表彰を受けます。「早寝・早起き・朝ごはん」というテーマの中で、佐賀市の取り組みが表彰を受けるということでございます。これを健康づくりのためにも、これから先も続けていきたいという事で４００万円弱の予算を計上しているところであります。

それから、**「健康運動センター拡張整備事業」。**昨年からやっていますが、サガン鳥栖に今年も頑張ってほしいわけでございます。ユースの練習場等を兼ねて作りますサッカー場に７億２千万円ほど予算を組んでおります。総事業費は１１億円にのぼるところでございます。

健康づくりの推進の次なるものは、**「（２）就労支援の充実」**でございます。ここでは、**「若年者就労意欲喚起等支援事業」**ということで、福祉総務課が取り組んでくれます。予算額は４２０万円程度でございます。先日も、皆さんたちの新聞の中でもいろいろ特集を組まれており、発達障害と必ずしも引きこもりとは一致するものではございませんが、いろいろと子どもたちの悩みが多い世の中になってまいりました。若者の中にも引きこもられる方がおられます。そういった方々への対応として、あるいは家族を励ます意味でも、こういったものをやはり充実していこうと。とりあえず引きこもりの若者等を、ＮＰＯなどの力を借りながら対応をしていこうというのがこの趣旨でございます。

次は、**【４.子育て支援と未来を担う人材の育成】**という課題の**「（１）次世代育成の支援」**の中で、保育所関係の**「私立保育園整備助成経費」**でございます。これは市が助成金を出す事業でございますが、鍋島に江楠学園保育園が作られます。入所人員９０名を予定され

ております。こういったものができあがりますと、来年度以降、待機児童の減少にもつながっていくと思います。

今年はここに３０人というのもありますし、別に愛の泉保育園というのがございますので、８０人程度は何とか吸収できるわけですが、それに加えて今年度の事業としての成果で来年度からの効果が出てくると思います。（**「保育所分園促進経費」**）

子育て支援と未来を担う人材の育成で、**「（２）教育環境の整備」**でございます。**「ＩＣＴ教育環境整備事業」**につきまして、今日もある新聞の中で、電子黒板の普及率等が掲載されておりましたが、佐賀市も決して整ってはいません。そういった事で力を入れていきたいという事で、今のところ小学生を２つに分けて、１、２、３年と４、５、６年、それから中学校１、２、３年。このように３つに分けて、３年計画で対応できないだろうかと考えています。総額９億円近くなりますので、とりあえず平成２５年度は小学校４年から６年まで、平成２６年度で中学校の１年から３年まで、そしてその次に小学校に戻りまして、１年から３年までというようなやり方でどうだろうかということで考えています。

ただ、評判がよくて早く入れるべきだということがあれば、前倒すことも考えています。

５番目の課題であります、**【５.地域や行政との絆づくり】**の**「（１）住民主体のまちづくり」**のところでは、自治基本条例の制定を今進めておりまして、３月にはだいたい素案ができあがるのではないかと。それから市民の皆さんに、いろいろ示して意見を求めるという事になると思いますが、ここでは**「地域コミュニティ推進事業」**を説明させていただきます。

予算総額は２，２００万円程度でございます。今、地域コミュニティの推進を図ることで、小学校区単位でモデル事業をやっております。今、７校区で手を上げてもらって、自らの手でいろいろと自分たちの特性を生かした街づくり等を検討いただいているわけですが、平成２５年度に新たに４校区加えたいと考えています。この事業が３年目でございますので、一定のまとめをいたしまして、次はどのようにするのか、やらせていただきたいと思います。

次は、**「（２）住民本位の市役所づくり」**ということで、説明するのは、**「シルバー人材センター助成事業」**、高齢福祉課の対応でございます。

これは、どういうことを狙っているのかと申しますと、今、家庭では、高齢者が一人で、あるいはお年寄りだけ２人で住んでおられるようなところも結構ございます。そういうところで、いろんな要望がきています。普通の人ならば自分たちで対応できる、処理できるようなことが、やはり誰かの力を借りなければならない。近所にうまくそれに対応できる人たちがいていただくと良いのですが、そういうところに頼れない人は、やはり役所にＳＯＳを発せられます。そういったものを、一つひとつ全て役所の職員が対応するとなりま

すと、応対し、また始末までといいますか最終のことまでお手伝いすることとなりますと、大変でございます。そういったところを、別のところでまとめて対応できないだろうかということで、シルバー人材センターにはいろんな方がおられますので、力を借りようかということで、よろず相談的なものをお願いする。当然、シルバー人材センターとしても採算が取れるような仕事でないといけないので、一定の助成をしながらそういう仕事もサービスではないけれども提供していただいて、シルバー人材センターの活性化にもつながればということで、平成２５年度初めて予算化をするものでございます。

あと、トピックス的なものとして、最近とみに動きがにぎやかになりました、**「国際リニアコライダーの誘致に向けた取組」**です。岩手の北上山脈と日本では九州の福岡・佐賀・唐津の一帯（脊振地域）が競い合っているところでございます。世界で５箇所の候補地があるようでございますが、私の街に、おらが村にと、そういうところで私たちも頑張りたいということで、今、佐賀県と福岡県が一丸となって協力しあいながら、それぞれの地域の団体等も巻き込んで、誘致合戦を行っているところですが、市も頑張るということであります。そういったところへ佐賀市も積極的に入って、一定の役割を果たしていきたい。そして、できれば九州に計画地が実現できるようにしたい。そして、佐賀北部山ろく地帯、そして佐賀市まで一定のうるおいを、勢いにできればということで頑張らせていただく事のひとつとして、ここにあげております。

それから、次は**「特例市への移行」**でございます。今まで佐賀市は特例市に手を挙げておりませんでしたが、いろいろ中身を見ると、それなりに取り入れて、よその部分を生かしていこうということで、特例市への移行を目指すことにいたしました。そういう取り組みをさせていただくというものでございます。

次のトピックスは**「第１回佐賀市民芸術祭、ＳＡＧＡルネサンス」**で、１１月１５日から１７日まで、初めての取り組みであります。文化振興計画を作りまして最初の取り組みになりますが、文化会館でこういう催しをやるということですので、マスコミの皆さんたちのもご協力をお願いしたいと思っています。予算は１，０５０万円を予定しております。

以上、かいつまんで説明をさせていただきました。総務部長から付け加えることがあれば。

〔平成２４年度２月補正予算（案）について〕

（総務部長）

私のほうから、今回の２月補正について、このページ（**資料：平成２５年２月補正予算**

概要３ページ）で簡単に説明させていただきます。

今回の２月補正は、減額補正となっておりまして、約６億２千万円の減額であり、補正後の予算につきましては、８５７億６，６００万円となっております。主な中身でございますけれども、まず総務部の退職手当で、定年前に退職される方の見込みがありまして、約３億９千万円の退職手当の増。経済部関係で、企業立地に伴うさまざまな補助金を支出するということで、これも年度末に例年やっている事業で３，８００万円の増。先ほどから市長が説明していましたように、国民健康保険の特別会計の繰り出しということで、平成２３年度分の赤字分につきましては３億６，０００万円、あと法定内の繰り入れということで合わせて３億９千万円の支出をするという中身になっております。

２月補正の特徴的な部分につきましては以上でございます。ただ、この後に国のほうでまた経済対策補正を予定されておりますので、その後に追加で議会のほうに送付するように準備をしているところでございます。国会が通りしだいですね。２月補正については以上のとおり説明を終わらせていただきます。